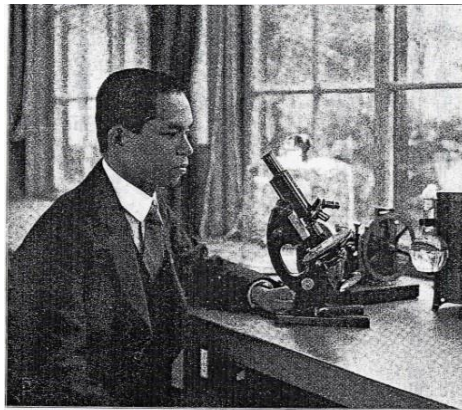


佐藤清明資料保存会（仮称）会報

No. 0（発刊準備号）



博物学者 佐藤清明（1905-1998）

佐藤清明資料保存会（仮称）

里庄町立図書館

2018.6.24.

序に代えて

＝ 図書館企画展に始まり佐藤清明資料保存会に至る経過 ＝

里庄町立図書館恒例の企画展担当職員小野礼子氏は、友人を通じて紹介された「岡山の妖怪」（岡山文庫）の著者で岡山民俗学会木下浩氏から、当町里見出身の博物学者佐藤清明氏の存在とその業績について聞かされた。その中で本邦初となる「現行全国妖怪辞典」を発行されたことに注目され、もと上新庄村屋住宅であった古民家文庫「茂登田」を会場に幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象にした「妖怪講座」を開催されました。講座の開催にあわせて、佐藤清明氏の幅広い業績を町内外に紹介すべく里庄の郷土史研究のリーダーで文化財保護委員長でもある生宗脩一氏と大原焼プロジェクト会長徳山容氏の協力を得て、「里庄のせいめいさん展」が開催されました。

その過程で、佐藤清明氏のご嫡男佐藤公康氏夫人美清様を通じて、江田伸司様・岡本泰典様はじめ各界の関係者の皆様、清明先生のお仲間やお弟子さん方のお仲間、地元の有志が加わって高まった佐藤清明氏の業績を顕彰し後世に伝えていこうという気運を受けて、里庄町立図書館の事業として、清明研究会（仮称）を立ち上げました。この会報は、この度発足の運びとなりました佐藤清明資料保存会の活動に備えるべく、当面の経過と図書館企画展の内容を中心にまとめたものです。

企画展「里庄のせいめいさん展」	平成 29 年 7 月 1 日～8 月 30 日	里庄町立図書館
清明研究会（仮称）準備会	平成 29 年 7 月 31 日	里庄町立図書館
図書館主催事業「妖怪講座」	平成 29 年 8 月 6 日	古民家文庫「茂登田」
第 1 回 清明研究会	平成 29 年 10 月 14 日	里庄町立図書館
第 2 回 清明研究会	平成 29 年 11 月 18 日	里庄町立図書館
第 3 回 清明研究会	平成 30 年 1 月 20 日	佐藤邸
第 4 回 清明研究会	平成 30 年 2 月 12 日	佐藤邸
第 5 回 清明研究会	平成 30 年 3 月 21 日	佐藤邸
資料梱包（第 1 次）	平成 30 年 4 月 5 日	佐藤邸

会の名称を、「佐藤清明資料保存会（仮称）」に変更する。平成 30 年 4 月 10 日

発刊準備号もくじ

1. 佐藤清明氏 略歴
2. 佐藤清明氏の主な著作
3. 佐藤清明氏の業績
4. 清明研究会(仮称)設立賛同者
5. 「妖怪講座」と「里庄のせいめいさん展」
6. 「里庄のせいめいさん」を知ってます？ 図書館司書 小野礼子
7. 六高菊桜について 佐藤公康先生 稿
8. せいめいさんが愛した六高菊桜とエヒメアヤメ
9. せいめいさんのお宝蔵「佐藤邸書庫」
10. 現在までの取り組みの概要

1. 佐藤清明氏 略歴

- 喟 38 岡山県浅口郡里庄村里見に生まれる
- 炬 12 金光中学校（現在の金光学園高等学校）卒業
第六高等学校に奉職、助手をしながら教員免許を取得する
- 炬 14 福岡県小倉中学校の理科教師となる。1年後結核療養のため帰郷する
- 喟 06 清心高等女学校（現ノートルダム清心学園）奉職し生物教師となる
- 喟 08 岡山在住 結婚 二男一女をもうける
- 喟 12 清心高等女学校奉職 以来50年間勤務
- 喟 20 里庄町に帰郷
- 喟 26 倉敷昆虫同好会の設立に尽力する
- 喟 26 岡山女子短期大学講師（～昭和43年まで）
- 喟 33 岡山大学農学部講師（～昭和60年まで）
- 喟 40 ノートルダム清心高等学校常勤から非常勤となる
- 喟 45 岡山大学医学部講師（～昭和49年まで）
- 喟 50 岡山大学薬学部講師を務める ノートルダム清心女子大学 関西高校
岡山工業高校など非常勤講師として歴任（～昭和58年まで）
- 喟 52 岡山県知事から岡山県私立学校永年勤続表彰を受ける
- 喟 53 文化庁長官功労者 受賞
- 喟 54 私立学校連合会理事長表彰を受ける
- 喟 55 勲五等双光旭日章 受章
- 喟 58 山陽新聞賞 受賞
- 喟 62 ノートルダム清心高等学校退職 名誉顧問に就任
- 平成 10 永眠 享年94歳

2. 佐藤清明氏の主な著作

博物学叢話 1932 文教書院

岡山県博物風土記 1. 2 1948 山陽新聞社

岡山県重要文化財図録 2 （天然記念物篇）編集 1954 富士出版社

現行全国妖怪辞典（方言叢書）1935 中国民俗学会発行

岡山県植物目録（岡山県博物誌 1 菊花の部 リムルス第4巻）1937

カブトガニ リムルス学会編 1932

天然記念物調査録全 50 巻 1948～1954

音声の研究 音声協会編

ほか多数（調査未収）

3. 佐藤清明氏の業績

1. 昭和 10 年頃、大原農業研究所（現岡山大学資源植物科学研究所）を拠点に、同好の方々と同好会を結成し、「岡山県博物同好会」会長として、活発に活動する。
2. 先生の活動は博物学全体に及び、化石・岩石・鉱物・植物・昆虫・動物等の標本と文献の収集および調査研究を生涯にわたって続けた。特に植物を好み県内外を精力的に調査する。生徒を引率してしばしば大山や四国に植物採集に出かける。圏内の生物関係の文化財の調査も行った。
3. 「せいめいさん」「せいめい先生」と親しまれ、自らも名乗る。華道をたしなみ、切手コイン収集も趣味とした。民俗学にも興味を持ち、「現行全国妖怪辞典」（中国民俗学会・昭和 10 年 1935）を著した。
4. 植物学の牧野富太郎、民俗学の柳田国男などと親交があった。
5. 博物学の南方熊楠や昆虫学の門前弘多、蘚苔類学者の飯柴永吉などの学者とも交流している。
6. 「変形菌に関する業績」は、岡山県産の変形菌を採集して、小西四郎や南方熊楠などの指導を受け、リムルス学会に発表した。
7. 収集した膨大な標本ほかは、現在倉敷市立自然史博物館に収蔵されている。
8. 岡山県土地利用開発審査委員長、国土利用再開発審査委員、自然環境保全審査委員、緑化推進審議委員、ふるさと村振興審議委員、黄微風土記の丘開発委員、倉敷昆虫同好会顧問・岡山自然愛護協会会長なども務める。
9. 岡山県文化財保護審議会、倉敷市文化財保護委員などの委員を歴任（昭和 42～平成元年）。

4. 清明研究会(仮称)設立賛同者（2017 年 12 月現在）

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| 1 山本敏夫 | 2 定金恒次 | 3 佐藤忠士 | 4 岡本泰典 | 5 木下 浩 |
| 6 江田伸司 | 7 土岐隆信 | 8 渡辺義行 | 9 佐藤美清 | 10 中尾茂男 |
| 11 小野礼子 | 12 生宗脩一 | 13 佐藤健治 | 14 小野 晃 | 15 稲田多佳子 |
| 16 安原清隆 | 17 平野秀朋 | 18 高橋達雄 | 19 徳山 容 | 20 才野基彰 |
| 21 才野嘉子 | 22 上田大基 | 23 西崎康男 | 24 杉井睦保 | 25 伊藤智行 |
| 26 佐藤泰徳 | | | | |

以上 26 名 敬称略・順不同

5. 「妖怪講座」と「里庄のせいめいさん展」

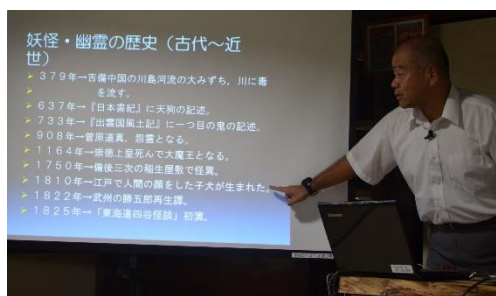
○図書館主催事業「妖怪講座」(平成29年8月6日 古民家文庫「茂登田」)

第1部 講演「岡山の妖怪 in 里庄」

講師：岡山民俗学会理事 木下 浩 氏

第2部 「岡山の民話・伝説」

担当：図書館ボランティア「お話トトロ」



○図書館企画展「里庄のせいめいさん展」(平成29年7月1日～8月31日里庄町立図書館)

清明の活動全般を網羅した充実した展示で、見学者の注目を集めた。

広報 さとしょう
(2017年8月号)

暑い夏、図書館で「ドキッ」とする妖怪辞典を読みこきて!

～日本初！妖怪辞典を出版した佐藤清明(里庄町出身)作品展開催中～

里庄町立図書館では8月30日(水)まで、里庄町出身の博物学者佐藤清明(1905～1998)の業績を紹介した、「里庄のせいめいさん展」を開催しています。

博物学者佐藤清明は、名前の音読みから「せいめいさん」と呼ばれていました。妖怪や植物の呼称の方言の研究、俗信の研究、植物学、鉱物学、天然記念物の調査・研究…。佐藤が手がけた分野は多岐にわたり、数多くの文化人と生涯にわたり交流を続けました。

今回の展示では、佐藤が昭和10年に出版した『現行全国妖怪辞典』のオリジナルの他、謄写版の『天然記念物調査録50巻』、民俗学者の柳田国男と交流した書簡の写真など希少な資料を数多く展示しています。

里庄町が生んだ「知の巨人」とも言える佐藤清明の作品をぜひご覧ください。



写真：資料提供者(佐藤美清氏・渡辺義行氏)と小野礼子氏・生宗脩一氏ら。

右の写真：展示会場風景

6. 「里庄のせいめいさん」を知っていますか？ 里庄町立図書館 小野礼子

1. 忘れられた知の巨人

「里庄のせいめいさん」とは、里庄町出身の博物学者佐藤清明（さとうきよあき 1905～1998）のことです。名前の読みから



「せいめいさん」と呼ばれました。活動は博物学全般に及び、天然記念物の調査を生涯にわたって続けました。20代の頃は民俗学に興味を持ち、日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』(1935 中

国民俗学会発行)を出版しました。牧野富太郎、柳田国男、南方熊楠、門前弘多などと交流があり、書簡が残されています。これらの業績に比べ現在の知名度は大きいとは言えません。

2. 佐藤清明との出会い

始まりは、夏休み講座に依頼した講師の木下浩氏の著作の中の記述でした。木下氏は数少ない佐藤の研究者で、里庄町の佐藤の遺族宅に通い地道に研究を続けていました。数年前に遺族宅から柳田ら著名人からの書簡が発見され、新聞報道があったにも関わらず、ほとんど話題にならなかったそうです。

佐藤関係の資料集めに東奔西走する日々が続き、行く先々で大量の資料が集まりました。そして、集めれば集めるほど、佐藤の業績のまとめも著作目録も何もないことが判明しました。

3. 「里庄のせいめいさん」展 開催

資料の整理も、著作目録も不完全なままとりあえず、平成29年7月から図書館で「里庄のせいめいさん展」が始まりました。目玉は、遺族から借り受けた『現行全国妖怪辞典』オリジナル本と柳田国男書簡の写真です。見切り発車で始まった展示会ですが、思いの外、大きな反響を呼びました。佐藤と生前交流のあった方、興味を持たれていた方が次々に来館されたのです。

そして、8月に展示会が終わる頃には、「佐藤の業績を研究して保存しなくては」という機運が盛り上がっていました。展示会が始まる頃には思ってもいなかった事でした。

4. 清明研究会の発足

9月には、町に佐藤清明資料保存計画を提出し、承認を受けました。そして、11月に佐藤資料を研究する団体「清明研究会」が発足しました。主なメンバーは、「里庄歴史勉強会」会員と、佐藤資料を研究されていた専門家の方達、生前佐藤と交流があった方達でした。

5. 清明保存会の発足とその後の計画

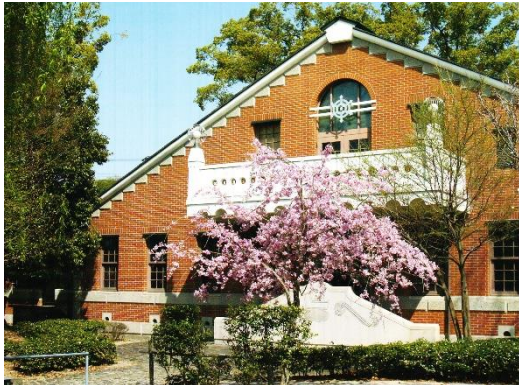
いよいよ、平成30年は、清明資料保存計画本格始動の年です。5月には、「清明研究会」の母体となる「清明保存会」発足会開催予定です。図書館でも清明資料の活用のための定期的な行事「清明を読む会」を企画しています。多くの資料が残された遺族宅の倉庫の資料の整理・目録作り、佐藤のPRパンフ製作、主な資料のデジタルアーカイブなど、すべきことは目白押しです。図書館を核とした地域住民による新たな文化財の発掘のモデルとなるよう微力を尽くすつもりです。

(岡山県図書館協議会機関誌掲載記事)

7. 六高菊桜について

佐藤清明先生ご嫡男 佐藤公康氏 稿

岡山市の朝日高校の敷地の一角にレンガ造りの六高記念館があり、その前庭に4本の桜の木がある。六高菊桜（備前菊桜）と呼ばれる八重桜の一変種である



（写真：六高同窓会誌12号表紙から）

毎年4月下旬に若葉が出始める頃に多重の清楚な花を咲かせているが、戦前、旧六高の校庭にあった時は見事な桜並木であったといわれていたが、昭和20年6月の岡山空襲で、校舎もろともこの六高菊桜も全て灰燼に帰した。しかし、幸にも当時、六高に奉職中であった私の父佐藤清明が、昭和17年に一枝を里庄村の自宅の庭に接木していたのが見事に育ち、戦後、県林業試験場の人達の努力で増株に成功し絶滅を逃れた。

昭和37年、岡山国体の際に、昭和天皇・皇后が、後楽園の延養亭の前庭に2本の苗木を御手植になっている。



（後楽園入り口正面の「六高菊桜」一対）

その後古巣の六高記念館の前庭に数本植えられた。また、岡山大学農学部前にも植樹され、現在は岡山大学創立30周年に植えられたものが大学本部正門横に、昭和54年設置の説明板と共に立つが、爾後の地面整備がすすむにつれ樹勢が衰えているのが残念である。（写真下）



一方、里庄の原樹は、4mに達する大樹になっていたが、1昨年（平成10年）の春には花をつけず、ついに五十有余年の寿命を全うした。奇しくも父清明もその年の秋に94才で他界した。

さて、桜は、ヤマザクラやヒガンザクラなどの野生種とソメイヨシノや八重桜などのサトザクラに大別されるが、菊桜は八重桜の園芸変種として中世より宮中にて育成された御所桜の一種とされる。しかし江戸末期には、多く御所桜も衰微消失したが、幸に菊桜故あって備前岡山に伝わって旧六高に保存されていたものを、旧六高の大渡忠太郎教授と、東大の三好学博士が、昭和6年に菊桜と鑑定し、*Prunus serrulata chrysanthemoides* と命名した。その後、金沢の兼六園など、北陸地方にも同種の垂型が発見され、兼六園菊桜と命名されている。岡山市竹原の三徳園には、この兼六園菊桜がある。

さて、六高菊桜の特徴は、第一に花卉の数が多き事である。普通の八重桜は、文字通り40枚位（普賢象など）、宗堂桜でも50

枚位であるが菊桜は花卉が100枚以上あり、多いのは200枚を超えるものもある。一方花の直径は3cmばかりで普賢象より小さめで球状に充実している（球状八重桜 P. spheranta とも別称される）。

第二に花期が長い事で4月中旬から濃い紅色の蕾をほころばせ5月中旬迄、いくらかの花球を残している。ぱっと咲いてあわただしく散る他の桜と比べて悠長の趣にひたれる。尚、菊桜の名は開花初期の花の形状が赤い菊花に似るによる。第三に散りぎわも見事で、一ヶ月の花期を終えると、一花ずつ花枝全体が離れ落ち、陣風にのり花球が地面をコロコロ転がる様をみるも雅趣である。その他、菊桜は灌木状で、四方に小枝を出す巨木とはならず、巨大に生長するを自ら戒めている如くである。また、

御所桜は人技で育成されて来た故、殆ど実を結ばず繁殖は専ら接木によるが、育成率は低いとされていたが、最近では園芸業者の間にも流出している様であるが、真偽の疑わしいものもある。

何れともあれ、奇跡的に生き残った六高菊桜の子孫が各地に植えられ開花がみられるのは大変すばらしい事である。

ところが、最近、六高記念館を訪れてみて、景観が一変しているのに驚いた。地面は、草地だった処が舗装でおおわれ記念碑の如き石構造物がすぐ近くに建てられ、樹木にとっては好ましくない状況になっている。折角由緒ある土地に戻った桜が又消滅するのではないかと危惧している。環境に配慮した整備をすすめてほしいものである。

（平成12年稿。写真は、最新ものになっています。）

「発見と当時の挿話④」から—植物手帳133号記事—

エヒメアヤメ（愛媛蘆蒲）

（一名タレユエソウ）

アヤメ科

エヒメアヤメは愛媛県の県花で、明治三十年に奥平幹一氏が、松山市の北方の腰折山で発見したものである。これは北支那から満洲・朝鮮などが本場で、愛媛県は世界における東限かつ南限として、大正十四年に天然記念物の国家指定をうけて有名になった。

その後は広島県、山口県、佐賀県、大分県でも続々発見されて、前例によりことごとく国の指定をうけた。その結果、地図の上で見るとエヒメアヤメの世界最東限地は広島県の沼田、最南限地は佐賀県の久保泉ということになるが、昭和二十九年に岡山県でまた採集されたことよって、岡山県がついに世界の最東限地といえるようになった。

岡山県においては笠岡市が、市の天然記念物として指定している。

エヒメアヤメは高さ十センチばかりの小さな野生のアヤメで、四月から五月にかけてうす紫色で、黄白色の斑点のある愛らしい草で松山では、昔からタレユエソウと呼ばれていた。花のときには葉は茎よりも短いが、花がおわると、葉は長く伸びて三十センチにも達する。アヤメ属は世界に百五十種もあるが、これがいちばん小さいものであろう。

昭和二十九年四月二十五日、岡山県鴨方町で、横溝熊市氏が岡山県で初めて発見し、この翌年、私は笠岡市吉田で採集した。

☆エヒメアヤメの全国の産地

A エヒメアヤメ自生南限地帯（国指定）

広島県三原市沼田西町

山口県豊浦町

愛媛県北条町—腰折山（明治30年奥平氏発見）

大分県杵築市猪宿

佐賀県神崎町

佐賀県佐賀市久保泉町

B エヒメアヤメ自生東限地帯

岡山県鴨方町（昭和29年横溝氏発見）

岡山県笠岡市吉田（昭和30年筆者発見）

☆エヒメアヤメの第2の産地を発見

私は横溝氏発見の場所を横溝氏に教えてもらい、地図もかいてもらって、翌年四月二十一日に現地に向かった。ところが道に迷い、やっとエヒメアヤメの開花した所に出た。ところがこれは別の地点で、ここは笠岡市吉田とわかった。第2の産地をこうして発見したのである。笠岡市は昭和四十二年、これを天然記念物に指定した。

エヒメアヤメの発見が山陽新聞に発表されたり、これを読んだ人から連絡があつて、さらに二カ所、岡山市で新産地がわかった。

（佐藤清明署名記事）

8. せいめいさんが愛した六高菊桜とエヒメアヤメ

六高菊桜

ヤエザクラの珍品種。4月初めに濃紅色の蕾がつき、5月になって直径3cmの淡紅色の小花を満開させるが花弁数は、180から300を超え、中央に雄しべが約10本黄色に残っている。一見菊に似た形なのでキクザクラの雅名で昔は京都御所所に植えられ、御所桜の名品であったが御所の衰微で絶えていた、大正の末ころ、第六高等学校教授大渡忠太郎は岡山市内蓮昌寺の植木市でこれを求め、苗を東京帝国大学の三好学に送つたが、これが皇居に献上されて花蔭亭の庭に開花した。その時に厚子内親王(順宮)の誕生があつてキクザクラは順の宮のおしるし(紋章)に選ばれたところ、後になって岡山の池田家へ嫁がれたので奇縁として1953年(昭和28)両陛下が後樂園にお手植えされた。(「佐藤清明」述)



広島市植物公園の六高菊桜

(同園の転載許諾済み)



右：佐藤邸の六高菊桜二世(2018.2. 移植・芽接ぎ)

タレユエソウ(エヒメアヤメ)

アヤメ科の多年草。中国大陸東北部、朝鮮、本州西部、四国、九州に産し岡山県下では浅口郡、笠岡市に分布する。根茎は短く叢生し多数の褐色織組状の鞘葉に包まれる。葉は長さ15~20cmの狭線形で2、3個直生し開花期には花序と同長であるが、花後には良く伸びる、葉の縁の上部にだけこまかい突起がある。花茎は高さ5~15cm、3、4個の包葉があり、4月下旬に最上包から1個の花を出す。花の時期は1~2日と短いため、人目につきにくい。外花被片は狭倒卵形で水平に開き、内花被片は倒卵形、円頭、外花被片より小さく直立し、花柱分枝は紫色、蒴は黄色、先端の裂片は長卵形で蒴果は小球形、誰故草は、誰ゆえにこんな美しい花が咲くのかという意味。最初、愛媛県で見出されたのでエヒメアヤメの別名がある。(佐藤の同志「西原礼之助氏」述)



笠岡市吉田のエヒメアヤメは、岡山県絶滅危惧種。昭和28年、横溝熊市氏が発見、佐藤清明が確認した

箱田山神社のエヒメアヤメ(笠岡市教委転載許諾済)

9. せいめいさんのお宝蔵「佐藤邸書庫」



清明先生の書庫



資料・書籍・写真やネガ・工芸品等が



大型書架10数本と大小の棚に収められている。



○自筆原稿・論文・牧野富太郎書簡・柳田国男書簡はじめ民俗学・植物学・郷土史にかかる書籍等膨大な資料収蔵。

10. 現在までの取り組みの概要

佐藤清明資料については、10 数年来、町内外から注目されていたが、里庄町立図書館小野礼子氏による図書館主催行事「妖怪講座」の企画を機に、図書館の事業の一環として関係者の間で組織的な取り組みが始められたところで、活動は緒に就いたばかりである。

以下は、時系列に沿って経過の概要を記したものであるが、佐藤清明氏ご親族と関係者の方々・図書館職員・生宗脩一氏・佐藤健治氏・高橋達雄氏・西崎康男氏・杉井睦保氏・伊藤智行氏ら各位によって適宜行われた折衝・事前協議・諸準備等については割愛しているので、詳細は会議の要項・配布資料、関係各位のメモによってご確認いただきたい。

第1回 清明研究会（平成29年10月14日 里庄町立図書館）

- 1 参会者自己紹介
- 2 里庄町立図書館長挨拶（中尾茂男館長）
要点：この会は、里庄町（教委）が公的に設置するものであること・・・等々。
- 3 経過報告（小野礼子氏）
 - ① 「妖怪講座」と「里庄のせいめいさん展」の経過報告
 - ② 「清明研究会（仮称）」立ち上げの経過報告
- 4 展示した「佐藤清明」に関係する著作資料について（小野礼子氏）
- 5 佐藤清明関係書簡と研究経過の説明
 - ① 書簡に関する論文関係について（岡本泰典氏）
 - ② 妖怪辞典と民俗学関係について（木下 浩氏）
- 6 佐藤清明とのご縁関係
 - ① 佐藤清明と牧野富太郎・横溝熊市等の関係（山本敏夫氏）
 - ② 佐藤清明との交流とその後（土岐隆信氏）
- 7 佐藤邸書庫の様子をスライドで（佐藤美清氏・岡本泰典氏）
- 8 佐藤家資料の扱いについて
 - ① 佐藤美清氏と江田伸司氏のご意向・・・里庄町へご寄付下さるとのこと。
 - ② 会員の意見
- 9 今後の研究会の運営及び研究事項（意見交換）

第2回 清明研究会（平成29年11月18日 里庄町立図書館）

- 1 新参会者紹介
- 2 里庄町立図書館長挨拶（中尾茂男館長）
- 3 経過報告（図書館小野礼子氏）
- 4 佐藤清明関係書簡と研究経過の説明
 - ① 書簡に関する論文関係について（岡本泰典氏）
 - ② 妖怪辞典と民俗学関係について（木下 浩氏）
- 5 佐藤清明とのご縁関係
 - ① 佐藤清明と難波早苗氏との関係について
「岡山県内に自生する特殊な植物」（稲田多佳子氏）
「ビッチュウヤマハギ」 佐藤清明記録より

- ② 「キクザクラ」について「皇居の植物」より（土岐隆信氏）
- ③ エヒメアヤメや岡大構内の菊桜等について（安原清隆氏）
- 6 図書館による佐藤清明関係資料保存計画（短期・長期）の検討（小野礼子氏）
- 7 佐藤邸書庫の「書類・資料」の扱い
 - ① 佐藤美清氏と江田伸司氏のご意向
 - ③ 岡本泰典氏・木下浩氏の計画案.
 - ④ 会員の意見
- 8 次回1月の書庫資料の搬出作業と記録・保管等について

第3回 清明研究会（平成30年1月20日 佐藤邸）

開会に先立ち、故佐藤清明氏へご挨拶（ご仏前にて法要。導師 佐藤忠士氏）。



1 事務局から経過報告（里庄町立図書館 小野礼子氏）



2 本日の作業目的（説明）

3 作業の進め方と役割分担

- 1) 現場責任者：生宗脩一氏
- 2) アドバイザー：土岐隆信氏・木下浩氏・岡本泰典氏
- 3) 一覧表記入者：稲田多佳子氏・小野礼子氏・才野嘉子氏
- 4) 資料撮影のためのチーム編成：4チーム8名
書庫にて（書架 S1～S19）
- 5) 全員が順次書庫を見学し、書庫内資料の現状を確認。必要に応じて写真撮影。
計画に従い資料の取り出しと整理にかかる予定であったが、研究者として経験豊かなアドバイザー各位から、資料取扱いの原則に照らし多くの不備のご指摘を受け、後日に禍根を残さないようにすべく作業を中止し、資料整理の原則と方法についてあらためてご指導を頂いた。

第4回 清明研究会（平成30年2月12日 佐藤邸）

- ① 経過報告（里庄町立図書館小野礼子氏）

町当局との折衝の経過について報告され、進捗状況は励みになった。

- ② 情報交換
- ③ 本日の作業

前回の反省を踏まえての「資料（仮称「佐藤清明文庫」）の今後の整理の仕方」と、資料の使用のホームページ公開までを見通した「資料整理の流れ」の提案に沿って作業を進める計画で、ポリ袋・防虫剤・段ボール箱・その他文房具が用意された。それらを使ってシミュレーションを行ったが、意見の一致を見ることができず作業は取りやめた。しかし、資料の扱いについての理解が深まり有意義な会となった。

○前日までに佐藤邸の庭の「佐藤清明」ゆかりの六高菊桜の「移植と芽接ぎ」が完了しており、生宗脩一氏から経過説明を受けた。

第5回 清明研究会（平成30年3月21日 佐藤邸）

- ① 経過報告里庄町立図書館より
- ② 情報交換と本日の作業確認

資料の箱詰めと防虫剤投入を予定していたが、資料の量と図書館の受け入れ体制の面等から検討の余地があることが分かり見送ることとし、第6回「清明研究会」及び図書館主催・「清明を読む会」等の打ち合わせを行った。

- * その後、少人数による作業で、図書館へ移す「資料」（書籍・書簡・写真・工芸品を除く）を梱包。（段ボール45箱分。右写真）



<編集後記>

佐藤家の皆様、佐藤清明氏につながる皆様のお志とお力添えを頂き、積年の思いが形になりつつあります。現在、図書館長中尾茂男氏・司書小野礼子氏と生宗脩一氏によるトロイカに曳かれてスタートラインに着いたところで、これから旅が始まります。

会報を発行したいので、とりあえず形にせよとの話を頂きましたので、創刊準備号として編集いたしました。皆様のご指導方よろしく願いいたします。

（会報担当 佐藤泰徳）

佐藤清明資料保存会（仮称）会報 No.0（創刊準備号）

発行日 平成30年6月24日

発行者 佐藤清明資料保存会（仮称）・里庄町立図書館

住所 719-0301 岡山県里庄町里見2621（里庄町立図書館内）

電話 0865-64-6016

ホームページ：www.sl.net.town.satosho.okayama.jp

Eメール：slnet@sl.net.town.satosho.okayama.jp